

事業者行動(計画・変更計画・報告)書

R4年 7月 日

(宛先)
滋賀県知事

提出者

住所(法人にあつては、主たる事務所の所在地)
〒520-2316 滋賀県野洲市上屋88番地

氏名(法人にあつては、名称および代表者の氏名)
ピー・アンド・ジー 株式会社 滋賀工場
工場長 山口 哲也

滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例

第25条第3項 第25条第4項
第27条第1項 第27条第2項において準用する同条例
第26条第1項
第27条第2項において準用する同条例第26条第1項

第25条第4項の規定に基づき、
[事業者行動計画を策定 (変更)
事業者行動報告書を作成] したので、提出します。

事業者の氏名 (法人にあつては、名称および代表者の氏名)	プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン 株式会社 代表取締役社長 スタニスラブ・ペセラ
事業者の住所 (法人にあつては、主たる事務所の所在地)	兵庫県神戸市中央区小野柄通7-1-18

1 事業者の概要

事業所の名称	ピー・アンド・ジー 株式会社 滋賀工場					
事業所の所在地	滋賀県野洲市上屋88番地					
主たる事業	日本標準産業分類 細分類番号	1	6	6	1	※ 産業分類・細分類名称を記載 化粧品製造業
事業の概要	化粧品製造業					
従業員の数	400	人	操業時間	24	時間/日	
該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロワット以上の事業所を県内に有する事業者 <input type="checkbox"/> 従業員数が21人以上であつて、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者 <input type="checkbox"/> 任意提出事業者					
主要な設備	ボイラ	9	台	熱源設備	15	台
	コンプレッサ	8	台	空気調和設備	233	台
				照明設備	4568	台
				その他		

2 計画期間(および報告対象年度)

計画期間	開始年度	R4	年度	報告対象年度	年度
	終了年度	R9	年度		

3 計画の(内容・実施状況)

計画の(内容・実施状況)	別添のとおり
--------------	--------

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番とします。

1 CO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

P&Gは全世界で温室効果ガス排出を2030年までに50%削減する目標を掲げている。滋賀工場は先駆けてネットゼロに向けてのパイロットプラントになっており活動を行っています

1. 徹底的な省エネルギー対策の推進と環境負荷低減を進めます
2. 再生可能エネルギーの積極的導入を進めていきます
3. サプライチェーン全体での省エネと製品開発を進めていきます
4. 社内活動及び近隣地域と協働で二酸化炭素の排出及び吸収源に資する森林保全を積極的に進めていきます。

2 取組の推進体制

工場内での取り組みとしてはサステナビリティリーダーというチームがありリードして社内向け・対外的な取り組みも含めて活動を行っています(Total10名で各課から選任されています)



3 これまでに取り組んできたCO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組

<取り組み>

省エネ対策として以下のような取り組みを実施

- ・工場棟が広がっていく中で、電力の使用量を抑えるべく、Officeなどに人感センサーを導入
- ・新棟空調にフリークーリングシステム採用
- ・生産エリアと設備の担当者が定期的に生産計画をもとに最適なUtilityの運用方法の検討会議を実施
- ・Officeなどの空調運転を一括管理
- ・再生可能エネルギー使用の開始(2019年度より)
- ・太陽光発電システム導入(2021年度より)
- ・GHPを廃止してEHPを導入することにより燃料による年間300tonの排出削減

<省エネ診断からの助言内容>

1. 放熱ロス改善
2. 蒸気トラップ更新
3. 排熱利用

4 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO₂排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	設備導入	中央監視システム(エネルギー監視)更新	H32~R6年度	
2	設備導入	Mortion Sensor導入	R1~R6年度	
3	プロセス改善	エネルギーの最適な有効活用方法検討定期会議	R3~R6年度	
4	設備導入	Absorption ChillerをEHPへ変更	R4~R6年度	
5	プロセス改善	生産に使用する純水削減による純水生成にかかるCO ₂ の削減	R4~R6年度	
6	運用改善	生産に使用する温水削減による温水生成にかかるCO ₂ の削減	R4~R6年度	
7	運用改善	契約電力量の見直しによる使用量削減	R4~R8年度	
8	運用改善	圧縮空気の温度の見直し	R4~R5年度	

(2) エネルギー起源CO₂以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	CH ₄	マテリアルリサイクルを促進することにより焼却時に発生する温室効果ガス低減を図る	R4~R5年度	
2				
3				

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標の進捗に対する自己評価

取組目標および目標設定の考え方		目標の進捗に対する自己評価
<p>上記の取り組み等により令和3年を基準に以下の数値目標を目指します。</p> <p>毎年5%削減</p> <p>P&Gの考え方は以下の通り 実質の温室効果ガス排出量として算出(都市ガスを対象とする) ※電気は再生可能エネルギー使用のためカウントしない</p>		

(4) 温室効果ガス排出量等の実績

	計画開始年度前年度の実績	実績報告				
		()年度	()年度	()年度	()年度	()年度
原油換算エネルギー使用量	kL	8,293				
温室効果ガス総排出量	t-CO ₂	12,368				
エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	12,368				
非エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	0				
CH ₄	t-CO ₂					
N ₂ O	t-CO ₂					
HFCs	t-CO ₂					
PFCs	t-CO ₂					
SF ₆	t-CO ₂					
エネルギー等原単位の推移		0,9269				

備考 「温室効果ガスの種類別の排出量内訳」欄については、事業者行動計画の提出義務の要件に該当しない温室効果ガスの排出量は、記入する必要はありません。

5 再生可能エネルギー等の利用に関する取組

(1) 再生可能エネルギー等の利用に関する取組の内容等

■ 計画最終年度までの取組の内容等

	実施計画		実績報告
	取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	太陽光発電外灯設備新設	R4～R5年	
2			
3			
4			
5			

■ 中長期的な取組の内容等

	取組の内容
1	ガスボイラーから水素やバイオマス燃料に変更検討
2	太陽光発電設備の増設
3	
4	
5	

(2) 所有する主な再生可能エネルギー設備

太陽光	450 kW	水力・小水力	kW	地熱	kW
太陽熱	kW	バイオマス	kW	その他 ()	kW
再エネ設備を効率的に利用する設備の導入実績					

(3) 再生可能エネルギー電気設備での発電量および自家消費量の実績

		計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			()年度	()年度	()年度	()年度	()年度
再エネ電気設備での発電量	kWh	5,940					
上記のうち自家消費量	kWh	5940					

7 その他のCO₂ネットゼロ社会づくりに資する取組

(1) 調整後排出係数に基づく温室効果ガス排出量の推移

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			()年	()年	()年	()年	()年
温室効果ガス 排出量の推移	t-CO ₂						
【調整後排出係数】	kg- CO ₂ /kWh						
特記事項							

(2) クレジット等購入

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			()年	()年	()年	()年	()年
グリーン証書の購 入	t-CO ₂						
クレジットの購入	t-CO ₂						
特記事項							

(3) 通勤や出張など人の移動および物流における脱炭素化の取組等

取組項目	実施計画			実績報告
	取組の内容	実施スケ ジュール		
1 物流の合理化	ドライバーさんの待機場所新設によるアイドリングSTOP	R3~		
2				
3				

(4) 業務で使用する車輛の脱炭素化の取組

	単位	計画開始年 度前年度の 保有台数	実績報告				
			()年	()年	()年	()年	()年
保有車輛の数	台						
上記のうち 次世代自動車の数	台						
特記事項							

(5) その他のCO₂ネットゼロ社会づくりに向けた取組等

取組項目	実施計画		実績報告
	取組内容	実施 スケジュール	
1 RE100	RE100%継続	R2~	
2 3R	分別によりマテリアルリサイクル率70%目指す	R4~	
3 環境マネジメントシステム (EMS)	生産に必要なエネルギーデータの集約及び監視と改善プラン策定	R4~	
4 サーキュラー エコノミー	使用後のボトルをお客様より回収して再利用	R5~	
5			